



4 建築のひろがり

第13章 清らかなモダニズム建築 吉田鉄郎が目指したもの

本章では、日本のモダニズム建築の嚆矢とされる東京中央郵便局、大阪中央郵便局を設計した建築家、吉田鉄郎を取り上げ、その業績から、私たちが今日、学ぶべきことを考えることとした^{注1)}。

吉田鉄郎（旧姓、五島）は明治27年（1894）5月18日、富山県東砺波郡福野町に生まれた。大正8年（1919）、東京帝国大学を卒業後、逓信省経理局営繕課に勤務し、東京中央郵便局（1931、写真1）、大阪中央郵便局（1939、写真2～3）を始めとする数多くの庁舎建築を設計した。両中央郵便局の無駄を排し極限まで洗練された構造体の表現は、日本における近代建築の中で最も優れた建築である。逓信省営繕課の同僚、山田守^{注2)}によると吉田は海外の本から日本の古い建築まで全部研究した上で、最後に自分の個性を発揮する創造的作品をつくっていたと言う^{注3)}。プロポーシオンを重視し、部分と全体の究極的な調和を目指す設計手法や、隅々まで高い完成度を有した建築をつくる姿勢は、その後、通信建築、郵政建築の真髄となり、小坂秀雄^{注4)}、葉師寺厚、内田祥哉、高橋航一らの、日本を代表する建築家に継承されていった。戦後、郵政建築をリードした小坂は、「吉田さんの作品は、外国のどの国にも見られない、正当な意味での純粋な日本的現代建築であると言える^{注5)}」と評価している。

吉田は、終戦1年前の昭和19年（1944）3月に逓信省を退官し、一旦故郷に戻っていたが、昭和21年（1946）5月、日本大学教授となり、病に倒れるまで4年近く、後進の教育に情熱を傾けた。また、堪能な語学力を活かしてドイツ語で「日本の住宅」^{注6)}、「日本の建築」^{注7)}、「日本の庭園」^{注8)}を出版し、日本建築、日本文化を広く海外に紹介したことも有名で、昭和27年度日本建築学会賞が授与されている。晩年は脳腫瘍を患いながらも口述筆記で上記の図書などを纏め上げ、昭和31年（1956）9月8日、東京荻窪の自宅で亡くなった。

鉄郎の生家、五島家は江戸時代、代々薬種問屋を営んでおり、明治初年まで寺子屋を開いて地元の子どもの教育に当たっていたとされる^{注3)}。父・五島寛平は安政2年（1855）生まれで、明治24年（1891）に福野郵便局長に就任している。母・ゐくは、石動郵便局長・小沢宗八の長女として慶応3年（1867）に生まれ、15歳で寛平に嫁いできた。郵政事業と縁の深い家系である。兄弟姉妹は5人である。長兄の寛平（幼名、達二）は明治18年（1885）生まれで、20歳の時に福野郵便局長を継いでいる。絵が得意で、金沢英学院に学び、福野農学校の英語講師をしたこともある。次兄・健三は明治19年（1886）生まれ。地元の県立農学校に学んだ後、東京美術学校に進み、卒業の年には文展に入選。短い期間だが、鹿児島師範学校に勤務した洋画家である。姉の岩倉たけは明治（1981）に他界した。

五島家の三男が鉄郎で、明治27年生まれである。大学を卒業した大正8年、吉田芳枝と結婚し、吉田家の養子となった。妹の廣瀬はるは、明治37年（1904）生まれで10歳年下になる。はるの次男、故廣瀬龍夫氏は富山通信病院長などを歴任された医学博士であるが、絵を得意とされ、若い頃、建築に進むか、医学を志すべきかを鉄郎に直接相談された経験をお持ちである。生前、奥様のみき子様と一緒に、富山県福野町に残る鉄郎の足跡を案内していただいたことがあるが、吉田鉄郎の建築を心から愛しておられることをひしひしと感じた。鉄郎の長男・純は旧制東京商科大学を卒業したが、落馬による怪我が原因で体調を崩し、早世している。

生涯に100を超える建物を設計した吉田であるが、没後半世紀以上が過ぎ、現存するものが少なくなっている。“近代化した日本において、真に日本的なものを表現した最初の現代建築”と評せられる、吉田の代表作品、東京中央郵便局、大阪中央郵便局は、郵政事業の民営化に伴い不動産開発が進められ



写真1 旧東京中央郵便局



上写真2 旧大阪中央郵便局（駅前広場側）

「地味に、手堅く、しかもごく控え目にこさえたものは、いつまでたっても、あきることがない」と吉田はオーギュスト・ペレーを評したが、薬師寺厚はその言葉はそのまま大阪中央郵便局に当てはまると言った。

下写真3 旧大阪中央郵便局 南側 立面詳細

堅く引き締まった柱と壁梁のデザイン。屋上の手摺を含めて縦のラインが強調されている。吉田は「外装のタイルは防空上の見地のみからではなく、煤煙の多い大阪市として汚れの目立たぬ様特に灰紫色のものにした」（現代建築、1939年12月）と述べている。郵便区分作業を行う1～3階は階高が高く、事務室がある4階や、宿直室や食堂が入る5階は階高が低い。郵便物は一旦、最上階に上げられ、落下方式により区分処理された。建物の4つの立面には、多様な開閉方式の建具が設けられているが、建具の見付寸法は統一されている。

た。その過程では建築家や建築史家だけでなく、国会議員や多くの市民^{注9)}が保存要望活動を展開、日本建築学会などの団体も保存要望書を提出し、公開シンポジウムを開催している。平成20年(2008)5月には富山テレビが特集番組を放送して^{注10)}、専門家だけでなく誰にでも分かるかたちで、吉田の建築作品の意義や建築家としての生きざまを伝えた。以下、本稿では、東京、大阪中央郵便局庁舎とほぼ同時期に設計されながら、紹介されることがあまりない2つの住宅を取り上げ、吉田鉄郎の建築の特色である「平凡さに潜むモダニズム建築の真髓」を考えてみたい。

旧・福野郵便局の離れ

富山県旧福野郵便局は大正12年(1923)に完成した木造2階の小規模な郵便局である。局舎建て替えの時は、長兄の寛平が郵便局長であった。通信省では大正11年(1922)1月に東京中央郵便局の仮庁舎が焼失したため、本庁舎の計画が進められていた。しかし関東大震災が発生したため、当初の設計案は大幅な見直しが必要となった。震災後、吉田は東京中央郵便局の設計に本格的に取り組むことになるが、その直前にこの福野郵便局を設計していたことになる。局舎は郵便局としての使命を終えた後も生命保険会社の事務所として使われていたが、既に建て替えられて現存しない。ただ、郵便局の離れとして設けられた住宅部分と蔵が、40年ほど前に隣家に曳家され、2009年に筆者が訪問した時は、ほぼ建設当時の姿のまま、大切に住み続けられていた(写真4)。2階の座敷は天井が高く、欄間に明かり取りが設けられていて室内が明るい。雪国、富山の天候を意識した設計であり、大きな開口部を持つ東京中央郵便局の設計とのつながりを感じた(写真5)^{注11)}。

福野町には、郵便局が所在した場所の近くにある「山田邸」など、幾つか吉田の作品が残っている。西方寺境内に建つ「授眼蔵図書館」は学生時代に設計したものとされる。富山県立福野高等学校(旧・農学校)には国指定重要文化財の「巖浄閣」



写真4 旧・福野郵便局の離れ 北西外観
曳家されて現在の位置にある。鉄郎の甥・廣瀬龍夫氏は幼少の頃、よく遊びに来た思い出があるとのこと。鉄郎の母・あくは、中庭に面した1階の居間で過ごしていた。当時、庭には大きな樅(いちい)の木があった。



写真5 旧・福野郵便局の離れ 光あふれる2階の座敷
左手に見える押入の上部に高窓がある。縁側の軒垂れを防ぐための補強材は最近、設置されたもの。

写真6 旧・馬場氏烏山別邸
世田谷区にある広大な敷地の中に建つ。現在は企業のレクリエーション施設の管理棟として使用されており非公開。吉田は馬場正治との縁で、馬場氏牛込邸のほか、馬場氏那須山荘(1928)、馬場氏烏山別邸、馬場氏熱海別邸(1940)と数多く設計した。はるが晩年、避寒のために過ごした熱海別邸は2006年に解体されたが、柘田隆一郎氏が馬場家本邸のある富山市岩瀬地区に再建することなどを検討されている。



が保存されているが、玄関ホール部分の壁に、若き吉田が描いた農学校の鳥瞰図が掲げられている。福野農学校は創立40周年記念事業として、「農業博物館」および「報徳会館」を昭和10年(1935)に完成させたが、その図面が保管されていた。通信省の木造庁舎を彷彿とさせるこの建物については、これまで紹介されていないが^{注12)}、設計図には吉田のサインがある。

旧・馬場氏烏山別邸

昭和12年(1937)、世田谷の広大な敷地の中に、芝生に面して白いタイル張りの、モダニズム建築を象徴したような鉄筋コンクリート2階建ての住宅が建てられた(写真6)。大阪中央郵

便局が竣工したのが昭和14年(1939)であるから、ほぼ同時期に設計された建物であると言える。十分な天井高をとった伸びやかな室内空間は、先に述べた福野郵便局の離れや、東京、大阪の中央郵便局と共通するものである。1階の居間は広々とした芝生に面し、また東側ではガラスに囲まれたサンルームにつながっており、開放的で光に満ちあふれている。2階にはベッドルームの他、小規模の落ち着いた洋間と和室が各1室ある(写真7~10)。随所に建築化された造付けの収納や家具があり、その仕掛けが機知に富んでいて面白い。吉田の庁舎建築は完成度の高い設計を目指したため、ある意味、緊張感すら感じられるが、住宅の設計では、吉田らしい骨太の建築の構成美とともに、細部の意匠に住まう人を優しく思う設計者の人柄が感じられる。

吉田鉄郎の人柄、後世へのメッセージ

建築はよく、その作者の人柄を表すと言われる。吉田と同じく通信省に勤務した経験をお持ちの内田祥哉 東京大学名誉教授は、とにかく真面目で誠実な人であったと述べられている。吉田は退官後も囑託として時々、通信省を訪れ、ご自身が設計された建物の追加工事の打ち合わせや、後進の指導に当たっていた。若い頃に結核を患ったためか、衛生面に神経質だったようで、宴会などでは料理に手を付けなかったと伝えられる。余計な装飾を排し、“清純な建築”を目指した吉田は、生涯、真つすぐに建築だけを追い求めていたのであろう。

吉田の日本大学時代の教え子である故矢作秀雄氏からお伺いした話によると、吉田は亡くなる1日前、荻窪の自宅で「明日は人生の終わりで。日本中に平凡な建築をいっぱい建てました」と奥様に語っている。「平凡な建物」というのは、吉田らしい謙虚な表現であるが、筆者は建築の真実とは何か、究極の建築表現とは何かを追い求めた結果として導き出された“普遍性ある建築”と理解するのが良いと思う。

病に侵されながらも口述筆記で纏めた「スウェーデンの建築家」^{注13)}の後書きは、吉田の遺言とも言えるべきものである。その中で「…日本住宅をみても、それは徹頭徹尾、経済的、合理的であり、かつ、きわめて近代的である。こういう建築を今日実現すれば、世界の人びとは驚くであろう。…芭蕉もいっているように、古人のあとをおわず、古人の求めたところを、求めればよいであろう。…わが国には古来、清らかさという特殊な美の概念があり、…もっとも合理的な、もっとも経済的な、かつ、清らかな建築は、きわめて日本的である。…かつて、ブルーノ・タウトは、清らかさを讃美して、日本文化が世界文化に貢献したものだといったが、この種の建築も、日本人のみでなく、世界の人びとに貢献することができるであろう」と述べている。

吉田が設計した東京中央郵便局は既に再開発され^{注14)}、大阪中央郵便局は解体された。別府市公会堂(1928)は2016年、

耐震補強、バリアフリー化、設備更新、正面大階段の復原、外壁タイルの張り替え、サッシュの更新などの改修工事が実施されている。吉田の木造住宅の代表作「旧馬場氏牛込邸」(1928、写真11)は、施設を保有する最高裁判所が、その保存・活用策について検討を行った。大正15年に竣工した吉田の初期の作品、京都中央電話局は、旧庁舎を保存しながら、2度目の再開発工事が実施された。残された数少ない吉田鉄郎の作品の将来を考える時、吉田が残した言葉は示唆に富んでいる。

パッハを愛した吉田は、「ちょっとでも動かしたら全体がくずれてしまうといったような究極的な調和を保ちながら、がっちりと組み合わせられ、しかも淡々と流れていく構造的な美しさ。あつといわせるようなものではなく、きくものの心にしずかに、またふかくしみこんでくる類のもの。建築もやはりこうこなくては…と、つくづくおもう」^{注15)}と述べている。また日本建築学会誌に寄稿した「くずかご」^{注16)}と題した論文の最後には、下記の文章がある。私たちに対する吉田からのメッセージとして受け止めたい。

「…名建築の改修などは、非常に重要な、やり甲斐のある、また非常におもしろい仕事ではあるまいか。こういふ仕事をやるさいにまず必要なことは、その建物の価値を十分に認識して、それにふかい愛情をもつことであろう。それから、たしかかな技術と同時に謙虚な気持ちをもつて、しかも念には念をいれてやることだ。もちろん、経費がたりないとか、当局者がやつかいな注文をだすとかいうことがあつて、なかなか思うようにはいかないものかもしれないが、しかし要するに、すべては建築家の認識と熱情とその技量にかかっているのではあるまいか。焼けビルの改修といったようなげやりな気持ちとか、自分の個性をだそうといったようなけちくさい考えなどは、もちろん、たれにもあるはずがなかろうが、それにしても貴重な文化的遺産をそこなわないように慎重のうえにも慎重を期してほしいものだ。それらは将来、日本の新しい建築の歴史において、たとえば法隆寺がふるい建築の歴史において占めているような、それほど重要な地位をしめるものかもしれないから…」

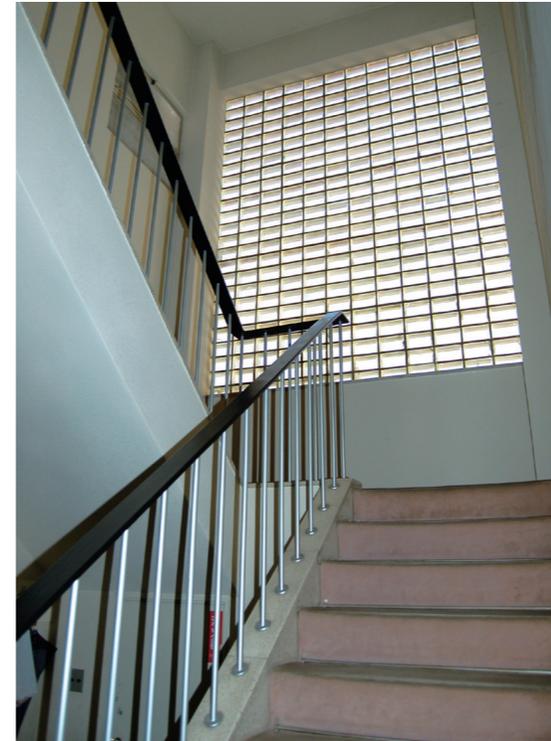


写真7



写真9



写真8



写真10

写真7 旧・馬場氏烏山別邸階段室
階段室手摺の笠木は幅広で、郵便局舎の階段手摺を彷彿させる。

写真8 旧・馬場氏烏山別邸 2階西側の和室
天井に達するまでの建具を入れた開放的なデザインは、同年に完成した馬場清彦邸(1937、木造)などと共通する。

写真9 旧・馬場氏烏山別邸 2階東側の寝室
ベランダを通して芝生の庭に南面する。窓の鉄格子は雲がたなびくようなデザインである。ベランダへの出入り口手前に洗面ブースがあり、反対側の壁面には収納を兼ねた化粧台がある。

写真10 旧・馬場氏烏山別邸 2階中央の洋間
竹を使った和風のデザインだが、壁面収納など、現代的な工夫も随所に見られる。



写真 11 旧馬場氏牛込邸（重要文化財）

木造 2 階、1,067㎡。現在、最高裁判所の付属施設として使われており、公開されていない。馬場家は北陸の五大北前船主のひとつ。馬場家 9 代目・道久に嫁いだはらは、37 歳で未亡人となったが、海運業で得た資金を県に寄付し旧制富山高等学校の開校に尽くした。はらが子弟の教育のために牛込若宮町に建てたのが牛込邸である。当時、まだ学生だった 10 代目・正治は自ら木場に足を運び、この邸宅を建設したと伝えられる。1930 年に来日したリチャード・ノイトラがドイツ工作連盟の機関紙ディ・ホルムに日本住宅の代表として紹介している。

注 1) 本稿は、拙著、平凡さに潜むモダニズム建築の真髄、INAX レポート April 2009, No.178 生き続ける建築—完 吉田鉄郎, pp.4-14, 2009 年 4 月を元に、加筆・修正したものである。

注 2) 山田守 (1894 ~ 1966), INAX REPORT No.174, 2008 年 4 月, p.4

注 3) 建築家吉田鉄郎とその周辺, 向井覚著, 相模書房, 1981 年

注 4) 小坂秀雄 (1912 ~ 2000), 元郵政大臣官房建築部長。外務省本庁舎などを設計。

注 5) 建築家・吉田鉄郎の手紙, 吉田鉄郎著, 向井覚・内田祥哉編, 鹿島出版会, 1969 年

注 6) DAS JAPANISCHE WOHNHAUS, 吉田鉄郎著, ヴァスマート社, 1935 年。建築家・吉田鉄郎の「日本の住宅」, SD 選書 237, 近江榮監修, 向井覚・大川三雄・田所辰之助共訳, 鹿島出版会, 2002 年

注 7) JAPANISCHE ARCHITEKTUR, 吉田鉄郎著, ヴァスマート社, 1952 年。建築家・吉田鉄郎の「日本の建築」, SD 選書 238, 薬師寺厚訳, 伊藤ていじ注解, 鹿島出版会, 2003 年

注 8) DER JAPANISCHE GARTEN, 吉田鉄郎著, ヴァスマート社, 1957 年。建築家・吉田鉄郎の「日本の庭園」, SD 選書 239, 近江榮監修, 大川三雄・田所辰之助訳, 鹿島出版会, 2005 年

注 9) 東京中央郵便局を重要文化財にする会

注 10) 2008 年 5 月 19 日, 吉田の生誕地の富山テレビ局が特集番組「平凡なるもの～建築家吉田鉄郎物語～」を放映した。番組取材の中で, 吉田の著書「日本の住宅」, 「日本の建築」, 「日本の庭園」を出版したドイツ・ヴァスマート社を訪問し, 50 年前に吉田が送った原稿を発見するなど, 学術的な成果もあった。

注 11) 私が訪問した前年, 旧福野郵便局の施工を担当した棟梁の子孫が図面を 3 枚, 保管していたことが分かった。筆者が故廣瀬龍夫氏から頂いた図面は, 日本建築学会建築博物館に寄贈した。

注 12) 吉田鉄郎建築作品集, 吉田鉄郎建築作品集刊行会編, 東海大学出版会, 1968 年には掲載されていない作品。2009 年, 筆者が富山県立福野高等学校を訪問した際, 元教員で蔵浄閣保存活用委員会委員の中島良夫氏が, 学校の倉庫に保管されていたとして 9 枚の設計図を提示された。吉田鉄郎の図面が発見されたとして北日本新聞 (2009.3.12) が紹介している。

注 13) スウェーデンの建築家, 吉田鉄郎著, 彰国社, 1957 年

注 14) 筆者は鳩山議員が総務大臣をされていた 2009 年 3 月, 東京中央郵便局を重要文化財にする会の方と共に大臣室にお伺いしたことがある。2 月に開催された衆議院総務委員会において, 河村たかし議員 (現名古屋市長) の質問に対して, 「重要文化財であるものを重要文化財でなくするというのは, トキを焼き鳥にして食っちゃうような話でしょう。」と答弁されたことが報道された直後であり, 大臣室は記者で埋め尽くされていた。私たちとの面会の直後, 鳩山議員は, 解体工事が進む東京中央郵便局の現場を電撃訪問され, 工事をストップされた。その直後, 日本郵政株式会社は旧庁舎の保存部分を倍増することに計画を変更する。東京駅丸の内駅舎に面した旧東京中央郵便局の立面のほぼ全体が保存されることになったのは, この時の鳩山邦夫議員の実行力の賜物である。大臣室で伺った話では, 子供の頃, 東京中央郵便局でお兄様の鳩山由紀夫氏と一緒に記念切手を購入した思い出があるとのことであった。一市民として郵政事業を愛し, また文部大臣経験者として文化財保護の重要性を深く理解された信念に基づく行動であったと思う。

注 15) 吉田鉄郎の建築と古さ新しさ, 樋口清, 建築, 1968 年 10 月をもとに一部, 簡略化している。

注 16) くずかご, 吉田鉄郎, 建築雑誌, 1950 年 3 月, p.27 ~ 31